2016年9月号 第139号 毎月1日発行

シリーズ 第76回

牛馬が歩いた大山道

平成二十八年四月、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーとして文化庁が認定する「日本遺産」に、鳥取県西部の大山周辺の史跡が「地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市」というタイトルで認定されました。

大山の地蔵信仰は、平安時代末頃から牛馬の守護を願う信仰の対象として、西国諸国から多くの信者が大山寺へ参拝し、江戸時代になると牛馬の売買も行われるようになり、明治時代には、一～二万頭の牛馬が集まる日本最大の牛馬市へと発展しました。

大成の道標

昔は、農作業を行うために牛馬は貴重な労働力として農家では大切にされていましたので、岡山県域からも祭礼の時期には、大勢の人々が参詣や牛の売買で大山寺に参っていました。参詣者が利用する道は「大山道」と呼ばれ、物資の往来などにも利用されました。

鏡野町域からも多くの人々が参詣し、津山や美作東部からの参詣者が利用した大山道もありました。津山市一宮の中山神社も牛馬信仰で有名な神社でしたが、ここでも牛馬市が開かれ、大山の牛馬市の後には中山神社へ牛馬が集まったといいますので、鏡野町域を多くの牛馬が往来したことが窺われます。

町域を通る大山道は、津山市田邑から沢田に入り大野へ、そして小座から剣山を越えて、入から吉井川を渡り、落合から高座・大成へ向かいます。現在でも大成の三叉路付近には、

右ハ大せん
従是　道
左ハ久世

と刻まれた、明和七年（一七七〇）六月に建てられた道標があり、大山道の名残を感じることができます。ここからツヅラ山（現在は通れません）を越えて、富の宿に着きます。宿はその地名のとおり、かつては旅人の宿があった所で、今でも当時の一里塚のエノキが残っています。大山へ参詣する人々もここで休息し、目的地へ向かったのでしょう。そこから、目木川を渡り、宮原・入間・篠坂を経て余川へ。余川からは二筋に分かれ、北上して上杉山を越えて中和から関金へ行くルートと、立尾から池の山を越えて真庭市の社を経て、蒜山から大山へ至るルートがありました。

宿のエノキ

また、久世方面から余川を北上し、樫西から富の兼秀を通過して大平峠を越え、真庭市の釘貫小川を経て、湯原の禾津に至り、そこから北上するルートもあったようで、大山牛馬市の帰りの牛馬が何百頭も列になって通過していたという言い伝えも残っています。兼秀の大山祇神社には、幕末の文久三年（一八六三）に奉納された牛の石像があり、かつての牛馬信仰の篤さを物語っています。

現在は自動車の普及や農業の機械化により、農業や運搬作業に牛馬の力を借りることがなくなったため、町内の大山道には牛馬が往来するかつてのにぎわいの面影はありませんが、日本遺産となったかつての民間信仰が、鏡野町域の人々の生活にも関係していたことは長く記憶にとどめておきたいものです。

大山祇神社の牛の石像（富西谷・兼秀）

参考資料：『昭和40年代にたどった大山道』、『岡山県歴史の道調査報告第八集 大山道』、『鏡野町史』民俗編、『富村史』、『鏡野町の石造物』、『富村の石造物』、文化庁HP

生涯学習課　日下
電話(0868)54-7733

〒708-0392 岡山県苫田郡鏡野町竹田660 鏡野町くらし安全課 TEL0868-54-2780
【鏡野町のホームページアドレス】http://www.town.kagamino.lg.jp/